

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	施設の玄関ホールに壁に提示している。毎月の定例会時、全員で唱和しながら意識づけし、実践に繋がるようにしている	事業所独自の理念を作成しており、事業所の年間目標及び職員も毎月の個別目標を設定しているほか、理念の実践ができるよう毎月の定例会議時に理念を復唱するようにしています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍で自治会の活動が自粛され、交流の機会を持つことができていない、またボランティアの方々の来訪も難しく交流ができていない	ご近所の方からお花や野菜を頂いたり、現在は新型コロナウイルスの影響で自粛していますが、例年では地域のボランティアの方に来てもらったり、地域の運動会やさいの神にも参加するなど、地域とのふれあいが心がけられています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ボランティア様の受け入れ、地域行事への参加が出来ず一緒に活動し交流を図ることができていない、その為事業所での取り組み等について地域の人達に向けて活かすことが出来ない		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二か月に一度、自治会長様、区長様、民生児童委員様、家族会会長様、市役所担当者様と会議を開催し、意見交換を行っている	新型コロナウイルスの影響で書面送付での開催もありますが運営推進会議は2ヶ月に1回開催しており、自治会代表者、地区の区長、ご家族代表、民生委員、市の担当者から出席してもらっています。参加者へ事業所の状況報告を行い、会議で頂いた意見はしっかり受け止めて向上するように努力しています。	運営推進会議の議事録に記載モレがありましたので、今後ミスの無いようにお願い致します。また、書面送付での開催時はいつ・誰に書類を送付したのかを分かるようにされることを期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	電話や運営推進会議時、市の担当者来訪時に独居の入居者様の相談等についてアドバイスを頂いている	市の担当者には運営推進会議にも参加していただいております。アドバイス頂いているほか、困難事例の相談や不明な点について連絡を取り連携が図られています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定例会、ユニット会議等で身体拘束の必要性について話し合い検討している。又研修会に参加し理解を深めている	身体拘束に関する研修を定期的に行ったり、身体拘束に関する検討も職員会議時に行い、できるだけ身体拘束を行わない方針が周知されています。	身体拘束検討委員会が調査時点では定期的に開催されておりませんでしたので、3月に1回は定期的に開催されることを期待します。
7	(5-2)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止について常に意識し、日頃の会話や身体に変化がないか注意している、排泄、入浴介助時には皮膚観察を行い、防止に努めている。職員全員が虐待防止について学ぶ機会があれば参加していきたい	不適切なケアに関する研修の機会も設け、職員の言葉遣いについても、気になる点があれば職員同士で注意し合える関係があり、虐待の防止に努めています。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度の対象になる利用者が1名いる。今後も対象になる方があると思うので、活用し、支援していく		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、ご家族様には重要事項説明書を中心に説明している、不明な点や質問には納得できるように説明している。制度改定時には、その都度変更内容を知らせている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	事務所のカウンターに意見箱を設置している、又電話連絡時に意見、要望を頂いている、意見、要望は運営推進会議や定例会時に報告している	運営推進会議の場だけでなく、面会時や電話連絡の際などに気付いたことや要望は無いか確認しています。また、現在は新型コロナウイルスの影響で自粛していますが、例年では事業所行事にはご家族にも参加して頂くように努め、ご家族との交流を図り意見が出易くされています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定例会、個人面談時以外でも気づきシートを提出し、働きやすくやりがいのある職場環境作りが出来るようにしている	毎月の定例会議の場で職員の意見や要望を確認しており、個人面談も実施し、職員からの意見を吸い上げられるようにされています。また、気づきシートを提出してもらい職員の日々の気づきを業務に活かせるようにしています。	職員会議録には終了時間も記載されることを期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回、人事評価の面談を行い、職員の意見を聞いたりアドバイスをしている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	コロナ禍で施設内外の研修には参加できていない、事業部内で研修を行なっている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域支援センターが主催するケアフォーラムはオンラインで行われている、開催する回数も少なく参加できないこともある		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に本人、家族から情報収集を行い、生活歴を把握するように努めている、本人の要望や新しい環境での不安を少しでも軽減できるように努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初回面接時、ご家族の困っている事、不安に思っている事に十分耳を傾け、良好な関係が築けるよう配慮している		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族からよく話を伺い、どのような支援が必要なのか見極めて、支援が出来るように対応している		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共同生活介護との観点から、なるべく出来ることを手伝って頂き、共に生活できるような関係を保っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	(7-2)	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族には気楽に来所していただけるような雰囲気づくりを心掛けている、コロナ禍で面会制限があるが、定期的に電話や手紙で近況報告を行い、本人を支えていく関係を継続している	ご家族に事業所広報を送付しているほか、居室担当者が個別にお手紙も作成して送付しており、日頃からよくご家族とコミュニケーションが取れており、受診・外出の支援もご家族の協力をいただくなど、一緒に支えあうことができるよう関係づくりに努めています。	
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会制限があるが、これまでの馴染みの関係が途切れないよう支援している、特に長く利用していた美容院等は本人の希望があるときには感染対策を行い、職員が送迎している	ご家族に面会に来ていただいたり、行きつけの床屋へ出かけたり、自宅への外出やお墓の参りに出かけたりと今までの関係継続支援に努めています。	面会簿の様式が2種類ありましたが、ご家族が業者用の様式を使っているものがいくつかありましたので、今後様式を見直されることを期待します。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	孤立しそうなときには隣のユニットの利用者と交流できるような関係作りを支援している。他の利用者のお世話をしてくれたり、話し相手になったりと助け合い、支え合えるような関係作りに努めている		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	特養を希望され退所された時には、十分に相談にのっている、また退居した後も連絡先を把握している		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人のやりたいことや、楽しみな事などを、お聞きしご希望に添えるよう支援している。聞き取り困難な方は、日々の様子観察を行い、ユニット会議等で検討している	日々のケアの中での表情や会話の中から思いの把握が行われており、その情報は職員間で共有され、介護計画の検討に活かされています。	
24	(9-2)	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの生活歴やサービス利用状況など、初回面接時に聞いている、また本人からの聞き取りが難しい場合は、ご家族や担当の職員から話を聞き、十分な情報収集ができるように努めている	ご本人やご家族からの聞き取りにてこれまでの暮らしの把握が行われ、ご本人の生活歴や嗜好を確認しており、定期的にアセスメントシートを見直しています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご本人が自分のペースで心地良く生活が送れるように、日々の行動の観察に努めている。本人の出来ることを見つけプランに位置づけて、日課として取り組んでいる		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画書作成時は、本人、家族の希望を伺うとともに、介護職員や看護職員と話し合い、カンファレンスを行っている。モニタリングは3か月ごとに居室担当者を中心に行っている	サービス担当者会議にはご家族にも参加して頂き、モニタリングも3ヶ月に1度行うなど、それぞれの意見を取りまとめケアプランを作成しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別ファイルに日々の活動や食事量、体重、排泄状況、バイタルを記録し状態を把握している。職員間で情報を共有し、入院等による状態変化があった場合は介護計画の見直しを行っている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の思いや楽しみな事などをお聞きし、希望に添えるように支援している。聞き取り困難な方は、日々の様子観察を行い、ユニット会議などで検討している		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	施設の外に出て散歩しながら、季節感を味わっている、コロナ禍で地域の行事の参加やボランティアは中止している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時に在宅時のかかりつけ医か、近くの診療所か希望を聞き、主治医を決めている。診療所は週1回往診に来ていただき、緊急時対応もして頂いている	かかりつけ医はご本人の希望するかかりつけ医となっており、事業所にも往診に来ていただいています。必要に応じ事業所から情報提供を行い、医師との状況の確認が行われています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員は、日常業務の中で状態観察を行い、看護職員に報告、異常時はスムーズに連絡し、情報を共有している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は地域連携票を提出し、情報交換に努めている、退院時には病院関係者とカンファレンスを行い、スムーズに退院できるように支援している		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した時は、看取りを含め意向を再確認し、施設で出来ることを家族に説明し方針を決定している、職員間で情報を共有し支援している	契約段階で事業所で看取りまで行う旨を説明しており、ご利用者の状態に応じて話し合いの場を持ち、ご利用者・ご家族の意向を確認し、事業所でできることを伝え支援していきたいと考えています。	重度化・看取りに関する同意書について、カラーでの複写を使用しているものがありませんでしたので、今後そのようなことが無いように改善されることを期待します。
34	(12-2)	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを作成し、職員が同じ対応が出来るようにしている、職場内で研修を行いスキルアップを図っている	必要時には看護師からも指導を受ける等、急変時に適切な初期対応ができるようにしています。	事業所でも救命に関する研修を定期的に行われることを期待します。
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回避難訓練を計画し定期的に行っている。特に夜間時に災害を想定し訓練している。近隣施設や近隣住民には緊急時の協力依頼をしている	夜間の火災を想定した避難訓練を定期的に行っており、非常用の食品や水も確保する等、災害時に適切な対応ができるようにされています。	避難訓練は年に2回、定期的に行われるように計画を作成されることを期待します。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の思いを大切に、適した言葉かけをおこなっている、安心して過ごして頂けるように対応している	ご利用者への言葉かけ等が馴れ合いにならないよう、ご利用者の人格を重視したケアが行えるように職員会議の場等で徹底されています。また、広報への写真の掲載についても、契約時に確認しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	その場の状況に合わせて可能な限りの希望をお聞きし、本人の思いを引き出せるように声かけしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の流れはほぼ決まっているが、本人のペースを大切に希望に沿った対応をしている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自分で決定できる人には、その日の服を選んでもらい、本人の意思、決定をして頂いている、本人の馴染みの理美容院が、利用できるように送迎の援助を行っている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の嗜好情報を把握し、本人の好みに沿った食事が提供できるように支援している、食事の盛り付け、野菜を切る、食器洗いと出来ることをして頂いている	ご利用者のできる範囲で調理や後片付けも行ってもらっています。また、ご利用者と一緒に干し柿作りをしたり、事業所の畑でも野菜をつくっており、収穫はご利用者の楽しみとなっています。	調査時点でご利用者の食事量の記入モレがありましたので、今後ミスの無いように改善されることを期待します。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	看護師、栄養士と連携を取りながら、その人に適した食事支援を行っている、朝食後はコーヒーのほか、午前、午後は必ず水分を提供している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後声かけを行い、本人の力に応じた口腔ケアをして頂いている、自分でできない方には職員が介助している、月に2,3回歯科衛生士による検診を行っている		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握し、定期的にトイレ誘導を行い、トイレでの排泄を行い、失禁を少なくするようにしている	必要なご利用者には排泄チェックを行ない、一人ひとりに合わせた適切な誘導、支援をしています。トイレも各居室から入れるようになっており、職員のさり気ない見守りや声かけで気持ちよくできています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便の管理を行い、起床時に冷たい水分を飲んで頂く、または十分な水分を提供している、適度な運動をして予防に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日の指定はしているが、本人の希望があれば、入浴して頂くように支援している	入浴を嫌がるご利用者にもうまくタイミングを見計らい、入浴していただけるようにしています。また、季節に合わせて菖蒲湯を行ったり、ホームには一般浴と特殊浴槽があり、ご利用者の状態に合わせた入浴支援ができるようになっています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	早く居室に入り休まれる方、遅くまで起きていられる方等、それぞれに合わせた対応をしている安眠できるように、室温、照明にも配慮している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の目的や副作用は把握しきれていないため、今年の1月より薬局に配薬をお願いしている。誤薬のないように名前を確認し、飲み込むまで見守りしている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	好きなテレビや音楽を聴いたり、また本が好きな方は居室で読書をしている、ADLの低下等で外仕事を出来る人が少なくなっている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人一人の希望に沿うようにしたいと思うが、コロナ禍で外出が出来ず、行事等も家族や地域の皆さんと行うことが出来ない	新型コロナウイルスの影響で自粛していますが、季節に合わせたお花見や紅葉見学などの外出は実施しています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を所持することの大切さを理解している、認知の進行により紛失したりと難しい面もある、ご家族の了解の下、本人が所持したりこちらで預かり、希望により買い物支援をしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居時に携帯を持っている利用者もいたが、段々使用できなくなってきたり、家族に電話した時に本人に電話口で、話してもらうようにしている、近況報告は手紙で行っている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共同の空間には、その場にあった明るさが確保されている、廊下の壁には季節にあった貼り絵を飾っている	リビングは広々として開放感があり、和室もあり、ソファも置かれてあり、ご利用者がゆったりとテレビを見ながら過ごせるスペースとなっています。ホームに飾られている写真や装飾品も季節に合わせてあります。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下やホール的一部分にソファを置き、気の合った利用者同士で会話できるような場を設けている、また、一人で過ごしたい人もそこで思い思いに過ごして頂いている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の思いや家族からの情報等を考慮し、使い慣れたものや好みの物を持参し、居心地よく過ごして頂けるようにしている	居室には、仏壇やタンスなどの使い慣れた物を自宅から持ち込んでもらっています。また、フローリングの居室に畳を敷いたり、ご家族の写真を飾るなどして、その人らしいお部屋作りの工夫をしています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室には名札、トイレのドアに図柄の表示、ホールの座席には名札を貼り工夫している、また自立した生活が送れるように、その場に適した声かけをしている		

V. サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)		1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				